

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10685001				
授業名	社会福祉論	形態	講義	単位	2
担当教員	鏡 諭、本多 敏明				
開講学期	2017年度 前学期	曜日・時限	金曜2限		
授業目的	この授業は前半の理論編（本多担当）と後半の実践編（鏡担当）から成る。前半は、社会福祉の理論・思想の基礎的な理解をとおして、受講生が自らの「コミュニティ政策学」の視点を育てる一助とすることを目的とする。後半は、福祉事務所及び自治体福祉政策として実施されている事業や支援を学習し、人々が安心して暮らすための仕組みとしての社会福祉を理解する。				
授業内容	前半は、とくに（1）社会福祉の理念・思想、（2）社会福祉の歴史、（3）社会福祉の法・制度の体系、（4）福祉行政の実施体制と福祉計画、（5）社会福祉の財源について解説する。9回目からの後半は、（6）福祉事務所や自治体での福祉政策の内容（7）障害者福祉・高齢者福祉・生活保護といった具体の制度を解説し（8）合わせて介護保険制度や地域福祉との関連を理解する。				
到達目標	この授業の目標は①社会福祉の体系や基本的な語句の意味を理解したうえで、②「コミュニティと社会福祉」に関する自分なりの問題意識を育むこと③福祉事務所の役割と④それぞれの福祉諸法と具体的な事業について理解し⑤将来の仕事や生活を営む上での必要な知識の習得を目指す。				
ディプロマポリシーとの関連性	<コDP2-(1)> コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。				
授業形態	基本的に講義形式で行うが、必要に応じてグループ討議や意見発表等のアクティブラーニングを実施する。 また、DVDやビデオ等の映像資料を参考に、現実の社会問題について学び、課題や解決策をレポートする。				
事前・事後学習の所要時間	講義科目：90時間（事前学習2時間×15回＝30回、事後学習2×15回＝30時間、講義時間：2時間×15回＝30時間）				
テキスト	テキストは特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。 参考文献「平成28年版厚生労働白書」厚生労働省編 参考文献「自立支援と社会保障」菊池馨実編著日本加除出版刊 参考文献「自治体現場から見た介護保険」鏡諭著東京法令出版刊 さらに、適宜映像資料を使用する。				
評価方法	社会福祉論にかかる基礎的な理解及さらにそれを発展させる独自の発想等について、授業参加、授業中の発言、事前学習、レポート、小テスト、試験により総合的に評価する。授業中のスマホ・携帯の使用及び居眠り、私語はマイナス評価がつくので、要注意。				
評価基準	授業参加度（授業中の質問・発言）20%、課題レポート試験（事後学習・事後学習、授業内レポート）50%、試験（随時試験・小テスト）30%合計100点				
試験・レポート等のフィードバック	試験及びレポート等頻繁に行い、教員の評価後学生に返却し、振り返りを行なう。				
注意事項及び履修条件	本講義は、教員から頻繁に課題を出し、それを学生が主体的に考え、レポート等による考えをまとめる。そのため、頻繁にレポート等があり、それが成績評価の大きな要素となるため、注意を要する。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					

第1回	
事前学習	シラバスを読み15回の授業の構成について理解しておく。
授業内容	鏡 諭・本多敏明担当。「オリエンテーションを実施する。受講にあたっての確認事項及び講義体系についての説明し理解を得る。授業の概要及びポイントを分かりやすく説明すると同時に、学生からアンケートを取り、学生の興味配慮すべき事柄等を把握し、授業の参考にす。また、どのような参考文献を利用するかを説明し、授業の理解が深まるように努める。
事後学習	オリエンテーション資料を再度読み直し、授業の振り返りを行なう。
参考文献	

第2回	
事前学習	共生、ノーマライゼーション、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）（のどれか）について語句の意味を調べる。
授業内容	本多敏明担当。社会福祉の理念・思想。現代社会においてなぜ社会福祉が必要か（必要でないか）。生活保護、介護保険などの基本的仕組みや財源構成を例に挙げて、「共生」のありようを考える。
事後学習	参考文献や授業プリントを参考に、「コミュニティと社会福祉」のつながりを考える。

参考文献	阿部志郎（2008）『福祉の哲学 改訂版』誠信書房。広井良典（2009）『コミュニティを問い直す』ちくま新書
第3回	
事前学習	（新）救済法、劣等処遇の原則について調べる。
授業内容	本多敏明担当。社会福祉の歴史。日本および外国における社会福祉の開始期および近年の動向における社会状況と社会福祉のありようを学ぶ。
事後学習	生活保護行政をめぐる諸課題を調べるとともに、「貧困は悪」という主張への反論を考え、レポート用紙2枚（800字以内）にまとめ、次回の授業の際に提出する。
参考文献	藤田孝典・金子充（2010）『反貧困のソーシャルワーク実践』明石書店
第4回	
事前学習	福祉六法、介護保険法、障害者総合福祉法（仮）の概要を調べる。
授業内容	本多敏明担当。社会福祉の法・制度の体系。福祉六法を中心に、社会福祉関連法の体系を学ぶ。
事後学習	社会福祉の援助を必要としているにもかかわらず、社会福祉の法・制度の体系から抜け落ちている人がいないかどうかを考える。
参考文献	新・社会福祉原論 足立勲編 みらい（第8章）
第5回	
事前学習	厚生労働省・福祉事務所・社会福祉法人の語句の意味を調べる。
授業内容	本多敏明担当。福祉行政の実施体制。国・都道府県・市町村の役割と各組織・団体の役割を学ぶ。
事後学習	国・都道府県・市町村のそれぞれの役割の違いをまとめる。
参考文献	新・社会福祉原論 足立勲編 みらい（第8章）
第6回	
事前学習	自分が住んでいる自治体の福祉計画の種類、目的、策定委員を調べる。
授業内容	本多敏明担当。福祉計画。福祉計画の意義、担い手、種類を学ぶ。
事後学習	福祉計画の種類をまとめ、福祉計画が地域住民の福祉にとってどのような意義を有しているかを考える。
参考文献	阿部志郎（2004）『地域福祉のこころ』コイノニア社
第7回	
事前学習	生活保護、子ども向け手当等の財源のしくみをまとめる。
授業内容	本多敏明担当。社会福祉の財源。社会福祉の関連諸法の財源のしくみと考え方を学ぶ。
事後学習	生活保護、障害者総合福祉法（仮）、子ども向け手当等の財源のしくみのもとになっている考え方をまとめる。
参考文献	堤未果（2008）『ルポ貧困大国アメリカ』岩波新書
第8回	
事前学習	「コミュニティと社会福祉」のつながりを改めて考える。
授業内容	本多敏明担当。前半のまとめ。現代社会福祉における「共立」する個人のありようを考える。
事後学習	「自立」した個人と「共立」した個人の違いをまとめる。
参考文献	阿部志郎（2010）『社会福祉の思想と実践』中央法規
第9回	
事前学習	「自立」という言葉について調査し、社会福祉における自立の意味を授業中に発表する。
授業内容	鏡 諭担当。戦後スタートした日本の社会福祉制度の中で、近年の社会経済状況を受けた変化を考える。また、制度として介護保険や地域福祉など新たな手法やテーマが登場すると同時に社会福祉のあり方も変わってきている。それらについて、それぞれの特徴を学び、社会福祉の意味を理解する。
事後学習	自分が安心して暮らせる社会福祉制度とは何かを復習し、まとめる。
参考文献	「自立支援と社会保障」菊池馨実編著日本加除出版刊
第10回	
事前学習	大きな政府・小さな政府の意味を調べて、授業中に発表する。
授業内容	鏡 諭担当。給付と負担、人口動態、少子高齢化等統計数字から読み取れる社会変化と生活支援策としての福祉政策の意味について、学習する。
事後学習	人口構造の変化の中で、福祉基礎構造改革の意味について復習をする。
参考文献	「平成28年版厚生労働白書」厚生労働省編
第11回	
事前学習	バリアフリーとユニバーサルデザインの言葉の意味を調べる。

授業内容	鏡 諭担当。障害があっても健常者であっても自立できる社会をめざすノーマライゼーションやバリアフリー、さらにユニバーサルデザインへの流れを理解し、障害者の環境及び支援を考える。
事後学習	身近にあるユニバーサルデザインについて復習し、理解をする。
参考文献	「自立支援と社会保障」菊池馨実編著日本加除出版刊

第12回	
事前学習	自治体が行っている子育て支援にはどのようなものがあるか3つ調査し、授業中に発表する。
授業内容	鏡 諭担当。保育行政の代表的な施策としての保育園や自治体で行っている子育て支援策にはどのようなものがあるか理解をする。さらに、安心して子育てが出来る環境とは何かについて、考察する。
事後学習	自治体の保育行政を取り巻く課題について復習をして、整理しておく。
参考文献	「平成28年版厚生労働白書」厚生労働省編

第13回	
事前学習	高齢者の就労機会として、どのようなものがあるか調査する。
授業内容	鏡 諭担当。高齢者の自立支援策について考える。特に就労支援や元気で生き生きと生活するための高齢者福祉施策とはなにかを考察する。また成年後見制度の概要を理解し、市民後見人等の可能性を探る。
事後学習	各自治体で行っている元気高齢者への支援事業について調査し、レポート用紙2枚（800字）までにまとめて次回の授業の際に提出する。
参考文献	「自立支援と社会保障」菊池馨実編著日本加除出版刊

第14回	
事前学習	介護保険制度について調査し、調べた事を授業中に発表する。
授業内容	鏡 諭担当。新たな福祉課題としての介護にたいする支援策としての介護保険について学び、あわせて地域福祉計画の意味について学び、福祉政策の変化について理解する。
事後学習	介護保険制度が保険制度である意味について復習をし、理解をする。
参考文献	「自治体現場から見た介護保険」鏡諭著東京出版刊

第15回	
事前学習	福祉から自立した生活を営めるように支援するためには、金銭的なものだけでなく、人々の支えが必要である。その点でこれから必要なケアの形を考える。救済的・防衛的な制度でスタートした福祉政策だが、より自立した生活を求める福祉に変化してきている状況について、理解する。
授業内容	鏡 諭担当。福祉の領域の変化と人々の価値観の変化がもたらす福祉観の変化について、復習しまとめておく。
事後学習	15回の授業を振り返り、社会福祉が果たす機能について整理する。
参考文献	「平成28年版厚生労働白書」厚生労働省編

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><コDP-2> 【コミュニティ政策学分野における知識・技能・態度】 コミュニティ政策学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決にあたる意欲、能力を身に付けている。</p> <p><コDP2-（1）> コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。</p> <p><コDP2-（2）> 講義科目で学んだ専門的な知識とサービラーニング活動を通じて得た実践的な経験を統合し、課題解決に必要な知識や技能を身に付けている。<コDP2-（3）> 地域社会の多様な場において、コミュニティ形成の中核を担う職業人としての態度・志向性を持っている。</p>
-----------	--